

# 秋の筑波大学ジオカフェ・リレー

## 第1回 10月23日



「筑波山および周辺の  
花こう岩・マグマからの形成」  
荒川 洋二 (生命環境系)

関東平野の北端に位置する筑波山およびその北に連なる山々は、花こう岩などの岩石によって構成されています。これらの花こう類は、地下10~13kmの深さで、マグマから固まってできたものと考えられています。今回のジオカフェでは、それらの山々を構成している花こう岩類を作ったマグマが、いつ、どのようにしてできたのか、あるいは火山と関係があるのか、などについて紹介します。

・日時  
ジオカフェは木曜日 18:30~19:30  
※事前登録なし&参加費は無料です

・場所  
つくば市役所2階会議室  
(研究学園駅から徒歩7分・駐車場有)

## 第2回 10月30日



「霞ヶ浦の過去、現在、未来」  
福島 武彦 (生命環境系)

湖沼の研究を始めて40年ぐらになりました。その間、霞ヶ浦流域と水環境、生態系は大きく変化して、また我々と湖の付き合い方も変わってきています。その道筋を追いながら、また日本、世界の他の湖沼と比較しながら、霞ヶ浦の将来を考えます。

## 第3回 11月6日



「原発事故による  
森林の放射能汚染」  
加藤 弘亮 (生命環境系)

福島第一原子力発電所の事故から早くも3年半が経とうとしていますが、福島県とその近県では、森林の放射能汚染問題が依然として出口の見えない状態が続いています。今回のジオカフェでは、森林環境中の放射性セシウムの移行・循環過程について解説するとともに、森林除染の取り組みについて紹介します。

## 第4回 11月13日



「霞ヶ浦地域の地形の変遷」  
池田 宏 (元筑波大学)

台地と低地からなる霞ヶ浦周辺にはなぜ丘陵がないの？

少なくとも15万年前からの地形変化を考えよう。  
日本第2位の大きな湖ができたわけは？  
数万年前から鬼怒川の流路変更を知ろう。  
霞ヶ浦の湖岸低地はどのようにしてできた？  
1万年前以降の海進期の地形変化を学ぼう。  
湖岸の盧州(ヨシ原)の近年の急速な破壊の原因は？  
今を見よう！

## 11月2, 3日 雙峰祭

学園祭学研企画 ジオネットアース  
「探検しよう! TSUKUBA-EARTH」  
筑波大学第2エリア2C101にて発表!



主催：筑波大学地球学類、大学院地球科学専攻

後援：ジオネットワークつくば 筑波山地域ジオパーク推進協議会

連絡先：生命環境系 丸岡 照幸 maruoka.teruyuki.fu@u.tsukuba.ac.jp